

香川県地震・津波被害想定検討委員会（第4回）

議事録

日 時：令和7年7月1日(火) 10:00～11:30

場 所：高松商工会議所会館 401 会議室

出席者：金田委員長、長谷川委員、馬場委員、今井委員、高橋委員、
藤原委員(web)、野々村委員(web)、白木顧問、事務局

○開会

石川総局長挨拶、金田委員長挨拶

○会議の公開・非公開の決定

金田委員長

本日の議事内容について、特段非公開とすべき理由はないが公開としてよろしいか。

各委員

異議なし

3. 議事

(1) 香川県地震・津波被害想定（第一次公表）について

○地震・液状化

委員

3 ページ目の想定地震一覧で、最大クラスも 80%程度になっているが、正しいか。

事務局

最大クラスは 80%ではないため修正する。

委員

80%の件は誤解を招くため、L2、L1 を分ける必要がある。

委員

三木町で震度が3階級も上がっているが、原因は。

事務局

断層の規模が変わったこと、浅部地盤が揺れやすくなったことが原因である。

委員

南海トラフ最大クラスの地震で沿岸部よりも内陸の方が揺れやすい理由について。

事務局

必ずしも浅部地盤の影響ではなく、深部地盤も影響する。また、距離も関係して震度が逆転した。

委員

半割れと全割れで地震動の継続時間は変わると思うため、学術的な評価はできていないと思うが、今後検討していく必要がある。

事務局

被害想定の手法が出てきた段階で、見直すところはあると考えている。

委員

液状化について、ボーリングデータを追加して微地形区分を見直したことが変化の要因と書かれているが、大きく変わったところはどこか。

事務局

丸亀市や高松市で旧河道が見られた。扇状地が砂礫質台地に変化したところもある。沿岸部で近くのボーリングデータを用いて検討しているため、地盤の状況を正しく評価できたものとする。

委員

液状化のところで見直したのは微地形のみで手法は前回と全く同じものか。

事務局

前は代表のボーリングデータを用いていたが、今回は近くのボーリングデータを用いて地盤データを見直した。

委員

南海トラフL2で、春日川の揺れが前回より小さくなっているが、これも地盤モデルの見直しが原因か。

事務局

浅部地盤モデルの見直しの影響と考える。

委員

L1でも高松の沿岸部から内陸部にかけてかなり液状化危険度が高くなる。震度5強であっても液状化危険度が高いため気をつける必要があるという説明でよいか。

事務局

能登半島地震でも震度が小さくても液状化したところがあるため、揺れが小さくても地盤によっては液状化する可能性があるというメッセージは必要。また、震度が小さくても液状化危険度が高くなる手法である。

委員

色がついているところすべてが液状化するわけではないため、この部分も含めてきちんと説明することが重要。

顧問

震度が小さくても液状化することを詳細に説明していく必要がある。

○津波

委員

初期潮位の影響が大きいことは理解した。高松市の潮位と同様に香川県沿岸の潮位は、大体 7.5cm 程上昇しているか。初期潮位はどこかに載せているか。

事務局

地域によって差はある。初期潮位は津波防災地域づくり法に基づく報告に関する解説資料内に掲載している。

委員

半割れの影響は見ないのか。

事務局

L2、L1で包含できるものと考えているので、浸水予測として半割れは見ない。

委員

液状化による地盤沈下を考慮しなかった理由は何か。

事務局

国の最新の手引きに記載が無くなったためである。

委員

液状化はばらつきが大きいので、広域的な沈下量として考慮することが難しいのが現実だと考える。

委員

30cm 到達時間図について、観音寺市で以前は早期浸水エリアであったが、潮位が上がったにもかかわらず、今回は早期浸水しない結果となった箇所があるがなぜか。

事務局

必ずしも潮位が上がって広がるわけではなく、波の重なりによっては低くなることもあり得るため、その影響と考える。

委員

小学校がある場所では校庭に避難するか校舎に避難するかを検討する必要がある。

委員

その部分についてはそれぞれの地域の皆さんが検討することになる。役に立つ被害想定として見ていただくのが良い。

委員

宝永地震は何から引用したモデルなのか。

事務局

内閣府が 2012 年に公表したモデルである。

委員

海面変動影響開始時間予測は、干満のタイミングによって時間がずれるのか。

事務局

計算上は干満の影響は考慮していない。地殻変動が起きて波の変化が発生し、海面が変動する。実際には干満の影響もあると思う。

委員

最高津波水位予測は何時間津波を計算されて割り出しているのか。

事務局

12時間計算している。

委員

L1の浸水域は堤防整備の効果で狭まったとのことだが、木太北部小学校の周辺は、L1でも浸水する結果となっている理由は何か。

事務局

津波が水路を遡上した影響と考える。

委員

海面変動影響時間と浸水深30cm到達時間と似たような情報があり、一見矛盾しているように感じる。定義の違いと思うが、この部分は丁寧な説明が必要と考える。

事務局

わかりやすい表現に努めていきたい。海面変動影響時間は浜辺にいる人などを対象としており、浸水深30cm到達時間は陸にいる人を対象としている。

委員

中央構造線断層帯による地震で海岸付近の地すべりにより発生する津波については考慮しないのか。

事務局

中央構造線断層帯で発生する地震では、津波は発生しないものと考えており、陸上の地すべりによる津波は検討していない。

顧問

それぞれの図について違いが分かるように表現しておくことが大事と考える。

(2) 津波防災地域づくり法第8条に基づく津波浸水想定公表について【報告】

事務局

報告内容について説明。本日（令和7年7月1日）付けで大臣報告する。

委員

事務局からの説明について、特に意見はないか。

各委員

異議なし

4. 閉会